

◆日根野聖子 選

「八木健のCATV俳句」の番組で、御意見番的な存在としてご出演の小西昭夫先生。小西先生は、愛媛新聞の俳壇選者であり、「子規新報」の編集長としてもご活躍。毎年五月に俳句とアートの作品展を開催され、会期中に朗読も披露されています。俳句とコメントの朗読作品、「チンピラ」シリーズ、待望の第三弾です。

「チンピラⅢ」

小西昭夫

案内を途中で止める道おしえ

道おしえとは、夏の山道でよく見かける斑猫（はんみょう）のことです。

蝉時雨なりどの傘を携っていこ

時雨は冬に降る通り雨ですが、雨とばかりは限りません。

頭の中はもわもわもわわ烏瓜

例えればこんな花であります。

横たわる女のように黒葡萄

アダムとイブの禁断の木の実は林檎だと言われていますが桃だという説も葡萄だという説もあります。

ガスの火を消したかどうか年忘れ

年忘れは忘年会のことですが、それどころではありません。

わが家族みんなA型いなびかり

血液型の違いによる性格診断を信じますか。

竹輪大根豆腐蒟蒻肉たまご

さて、この句の季語は何でしょう。大根。その通りですが、正解は「おでん」です。

松山の腰抜けたちの餛飩（うどん）かな

昔は讃岐うどんが好きでしたが、年をとるほど松山うどんが好きになりました。

早々と腹の減りたる七日粥

芹・なずな・ごぎょう・はこべら・仏の座・すずなす・ずしろ。春の七草であ

ります。

恋猫の他に為すべきことやなし

一途さ、ひたむきさには頭が下がります。

耕して何にも植えておらざりき

美しい風景であります。

百代の過客のひとり春の蠅

格調高くいきます。月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして旅を栖とす。

磯巾着とじてひらいてまたひらく

「また」の表記は自由に想像してください。

鳴きそうな亀のやっぱり泣かざりき

しばらくの間、亀の甲羅干しを見ていました。

チューリップ顎を外して笑いけり

チューリップは花の形を超えていました。

何度でも恋はするべしチューリップ

私、生まれも育ちも葛飾柴又。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎。人呼んでふうてんの寅と発します。

著莪の花毛並みよいか悪いか

ぼくは自分がどこの馬の骨なのか知りません。

さて、結論でございます。

チンピラを卒業できずチューリップ

◆伊藤洋二 選 ～「諳んじたい俳句 88」～

大いなる春日の翼垂れてあり 鈴木花叢

日照権は、法律や条文に明記されてはいないが、多くの判例で認められている権利である。お日様の高さ、日射角度は、冬至が約三十度で、夏至は八十度、御彼岸には五十五度になる。お天道様が家のどの辺りまで入って来られるかで、

季節の変化を知ることができる。

昼蛙どの畦のどこ曲らうか

石川桂郎

畦塗りは、熟練を要する大事な作業で、代々伝えられた「すきぐわ」と云う農具で行う。縁あって頂戴し、猫の額ほどの畑の畝作りに大切にに使わせていただいている。少々草臥れてはいるが、まだまだ現役として活躍してくれている。

「柱には虫入るも鋤の柄には虫入らず」は、けだし名言。我が畑を見て一句。

「どの畦の此処も彼処も地虫出づ」。

打水の流るる先の生きてをり

上野 泰

夏の甲子園、全国高等学校野球選手権大会では、地元の声援を受け、深紅の大優勝旗を目指し健闘の若人達。六回表開始前のグラウンド整備のBGM、♪雲は湧き光あふれて…ああ栄冠は君に輝く♪ この曲を聴くと胸が熱くなる。グラウンドへの芸術的な散水シーンは一滴入魂の如し。

あるときは船より高き卯浪かな

鈴木真砂女

学生時代、和風月名の睦月、如月、弥生、卯月…、の十二カ月を覚えるのに「む、き、や、う…」と言葉の最初を暗誦したことを思い出した。昨夜の飯は忘れたが半世紀前の事は思い出す。当時の先生曰く、「忘れる以上に覚えることである」。

「あるときは温故知新の卯月かな」。